

鏡野町立保育園・

幼稚園のあり方検討委員会答申書

平成22年5月13日

鏡野町立保育園・幼稚園のあり方検討委員会

委員長 松岡 信義

平成17年3月に旧鏡野町、奥津町、上齋原村及び富村が合併して5年経過しましたが、旧町村には、それぞれの歴史の中で、小学校就学前の成長期にどのような子育て支援、あるいは教育が必要であるかが考えられ、保育園、幼稚園が設置されていきました。

それぞれの考えで設置された保育園、幼稚園ですが、子どもの幸せのために、新しくなった鏡野町をどのような子育て環境にすべきかとあらためて問うとき、「子どもにとって最善の利益とは何か」を念頭に置き、3世代先をイメージしながら保育園、幼稚園のあり方を考える必要があります。

岡山県下でも有数の広さを誇る鏡野町は、季節ごとに移り変わる豊かな自然があり、

人情味あふれる風土があります。この中ですべての子どもが健康な心と体を育み、豊かな情操と賢さを身につけることができる環境整備が必要となります。

その環境整備のため、保育園・幼稚園児数、施設の配置、地域とのかかわりなどあらゆる人的・物的環境について検討した結果、平成21年10月13日付けで本検討委員会に諮問された事項について、次のとおり答申いたします。

(1) 鏡野地域の保育園・幼稚園の規模や配置のあり方に關すること。

奥津保育園、富保育園及び上齋原幼稚園は、それぞれの地域内で唯一の保育園、幼稚園で、地域の人々に愛され、地域とのかかわりが

深い園であり、定員、配置とも現状のまま存続することが適当と考えます。

芳野保育園については、ここ数年定員を上回る入園希望があり、今後もこの状態が継続されることが予想されるため、早急に改築若しくは増築し、定員増を図るべきであります。但し、大規模園になると、一人ひとりの園児に目が行き届かなくなる懸念があり、パランスのとれた定員となるよう検討が必要です。

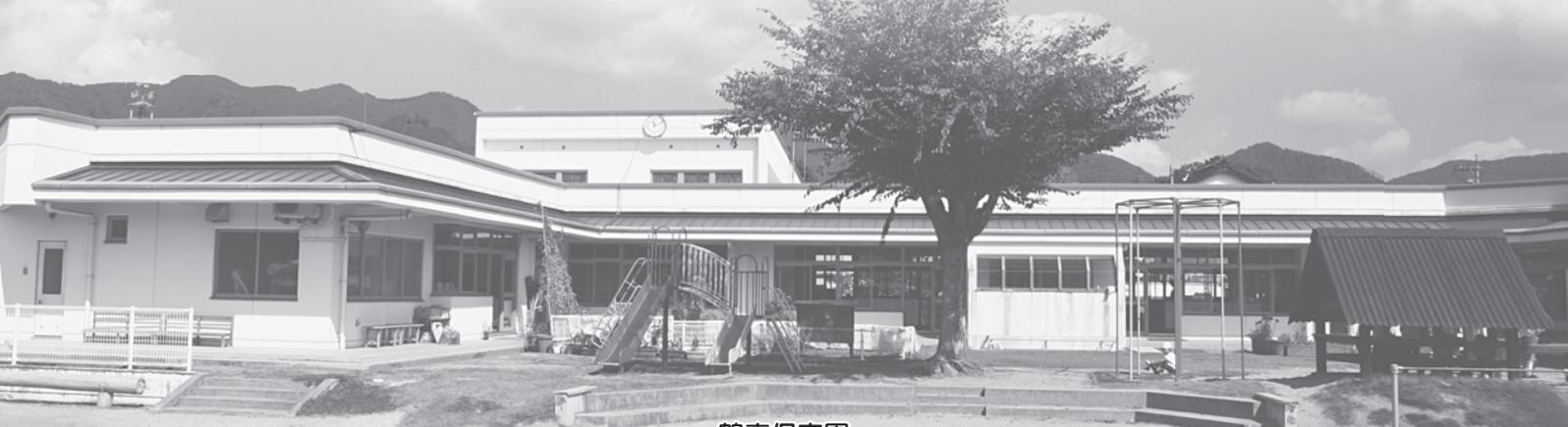
実施計画にあたっては、将来郷幼稚園が芳野保育園の位置へ移設され、保育園と幼稚園の機能を備えた施設となる可能性があることを考慮すべきものと考えます。

郷幼稚園は当面、現状の

まま存続することが適当と考えますが、入園希望者が減少傾向にあり、適正規模の教育集団の中で幼稚園教育が実践できるよう、将来的には、保育園と幼稚園の機能を備えた施設への移行の可能性を検討するよう求めます。

大野保育園については、ここ数年入園希望者が増加傾向にあること、施設がかなり老朽化していること、園内の施設配置が不適切であること、送迎用駐車場が狭小で県道に面し危険であること等により、できるだけ早く移転改築すべきであると考えます。

香南保育園及び鶴喜保育園については、当面現状のまま存続することが適当と考えますが、園児数が減少



鶴喜保育園